



2006年6月27日

CTS800-4 ターボシャフト・エンジンの契約を獲得
英国軍次世代Lynxヘリコプター向け、総額は1億4,000万ドル（約164億円）

【米国2006年6月22日】 民間航空、防衛航空、船舶、エネルギー各分野の世界市場において事業展開するロールス・ロイス社（本社：英国ロンドン、CEO：サー・ジョン・ローズ、以下「ロールス・ロイス」）は、傘下の The Light Helicopter Turbine Engine Company 社（以下、LHTEC 社）が、AgustaWestland 社より、英国軍の次世代 Lynx ヘリコプター（以下、次世代 Lynx ヘリ）向け CTS800-4 ターボシャフト・エンジンの受注契約を獲得したと発表しました。契約総額は1億4000万ドル（約164億円）となります。

これは、英国防省が英国空軍および英国海軍向けに、侵攻輸送用および海上用途の次世代 Lynx ヘリを70機 AgustaWestland 社に発注したことを受けたものです。次世代 Lynx ヘリは、1,361軸馬力の CTS800 - 4 エンジンを搭載、現行の Lynx ヘリに比べて大きくパワーアップすることになります。さらに、このエンジンは、次世代 Lynx ヘリの性能を引き出す高度なパフォーマンスを発揮するとともに燃費効率に優れた性能を持つエンジンです。

次世代 Lynx ヘリは、2014年から現行機に取って代わる予定になっています。また、CTS800エンジンは、AgustaWestland 社製 A129 軍用ヘリに搭載されて飛行テストが行われています。

ハネウェル社の防衛航空事業ヘリコプター部門のバイスプレジデントであり、LHTEC 社の執行役員のネイサス・カラス（Nasos Karras）氏は、次のように述べています。「CTS800 エンジンは、過酷な作動環境の中でも次世代 Lynx ヘリにとって信頼性、経済性を満たすパワーを発揮するとともに、任務遂行にあたり最も適した特性を持つエンジンです。また、回転部位の設計を改良しエンジン寿命を伸ばしたり、定期的な検査の管理手法を用いたりすることで、メンテナンスコストを軽減し、機体の運用コストの大幅な軽減を可能としています。」

ロールス・ロイスのヘリコプター・スモールガスタービンエンジン事業部門のプレジデントであり、LHTEC の執行役員でもあるスコット・クリスリップ（Scott Crislip）は以下のように述べました。「ハネウェル社は軍用 Chinook ヘリにエンジンを、我々も軍用ヘリ Apache、Lynx、Sea King、Merlin にエンジン供給してきています。両社が、CTS800 エンジン搭載の次世代 Lynx ヘリを通じて英国軍へのサポートを継続できることを誇りに思っています。」

今回、契約を獲得した LHTEC 社製 CTS800-4 ターボシャフト・エンジンは高い信頼度を誇るデジタルエンジン制御装置（以下、FADEC）を備えています。この FADEC は、パイロットの操縦負荷を減らすと共に、エンジンの定期的な検査を効率化することで大きな効果を発揮します。

以上

ご参考

1. 現在、LHTEC社製 CTS800エンジンは日本、アメリカ、ヨーロッパで採用されています。その例としては、日本の海上自衛隊で試験が行われている新明和工業製の救難飛行艇「US-1A改」の境界層制御システムのエンジンとして採用されている他、今年度末の初飛行を予定する二重反転式ローターを持った高速ヘリであるシコルスキー X2 Technologyの試作機に組み込まれています。
2. T800/CTS800エンジンには、民間機、軍用向けに1,680軸馬力の大型バージョンも揃っています。
3. 次世代Lynxヘリコプターとしては、CTS-800が搭載されたスーパーLynx300系が中心となると予想され、既に、マレーシア海軍、タイ王国海軍、オマーン王国の空軍で採用されています。また、南アフリカ空軍からの受注も獲得しています。

以上